



◆新庁舎初めての参観デー

センターが新しい庁舎となって初めての「参観デー」を12月1日(日)に催し、多くの来場者でにぎわいました。子供たちが楽しく夢中に頑張っていた「おさかな体験コーナー」などの様子を中心に紹介します。



海洋漁業部チームはカラフルな魚拓づくりを企画。魚だけでなくタコやイカにもチャレンジする参加者もいて、綺麗なアート作品に仕上がっていました。

◇魚拓をつくろう

放射能研究部チームはカレイやアナゴなどの解剖体験を企画。解剖の仕方を教わりながら魚をさばいて魚体の仕組みを興味深く学んでいました。

◇解剖にチャレンジ



◇かまぼこづくり

漁場環境部チームはピンクやミドリ色のかわいかまぼこづくりを企画。参加者は練り物の製造工程も学ぶことができました。

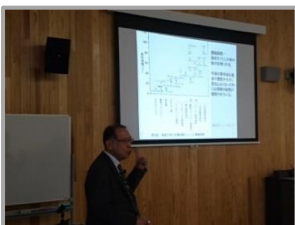


◇調査船いわき丸公開

いわき丸の一般公開は小名浜魚市場の別会場で開催。日頃見学できない操舵室や魚群探知機の船舶設備を好奇心いっぱいに見学していました。



特別講演会



東京海洋大学の石丸 隆 名誉教授から「福島海と今」と題して、震災以降の放射能の推移状況等を来場者にわかりやすくお話しいただきました。

施設見学ツアー



◆試験研究の紹介〔ICT技術を活用した水産業の取組み〕

海洋漁業部では、「ICT」通信技術を活用した先端技術の実証研究を進めています。
〔取組期間：平成30～令和2年度〕情報の収集から解析、提供に至るまで最新の通信技術を活用します。今回は、食料生産地域再生のための先端技術展開事業を紹介します。

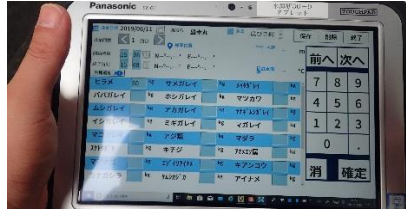
①情報の収集

水温・水色データなどの『海洋環境情報』



《洋上ブイ・衛星からデータ収集》

漁獲データ・底水温などの『操業情報』



《漁業者からのデータ収集》

水揚げ・取扱量などの『市況情報』



《産地・消費地市場からのデータ収集》

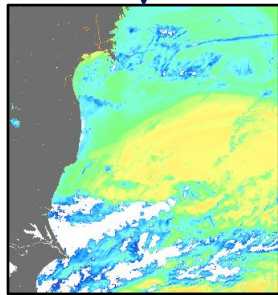
②データ解析・研究

◇水産海洋研究センター（いわき）

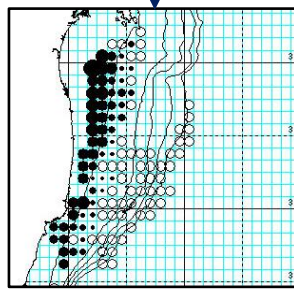
- ・底魚類の迅速な資源評価技術の開発
- ・沿岸性浮魚類の操業支援技術の開発
- ・県産水産物の流通実態の把握

◇水産資源研究所（相馬）

データサーバー



〔操業支援情報〕



〔資源情報〕

漁況概況（試験操業）							集計期
漁協	漁業種類	水揚げ日	延獲-統	魚種	水揚量 (kg)	平均単価	
相馬双葉	底り焼網	4/1,3,4	61	ウバカレイ	7,790	366	
				マダラ	6,901	141	
				キアナコ	6,217	214	
				ヤマギシ	5,442	395	
				アオメリ	3,385	846	
				マアコ	3,261	1,638	
	サマカレイ	2,238	316				
	ヤマギシ	1,927	570				

〔市況情報〕

③わかりやすく情報を提供！

漁業者

- ◇操業支援情報〔表面水温・底水温など〕
- ◇資源情報〔主要魚種の分布移動など〕
- ◇市況情報〔県内外の産地市況など〕



《スマートフォン等から情報を入手！》

漁業者がこのシステムを活用することにより、操業コストの軽減化と資源や市況状況に応じた計画的な漁獲を実現することができます。本県沿岸漁業の復興と発展のため、このICT情報技術を活用した「ふくしま型漁業」を展開します。

◎福島県水産海洋研究センター

◇所在地 〒970-0316 福島県いわき市小名浜下神白字松下13-2

◇電話番号 0246-54-3151（代表）

◇メール kaiyoken@pref.fukushima.lg.jp